

(別添 2)

No.	4
策定年月	令和3年8月
見直し年月	令和 年 月

麦・大豆産地生産性向上計画 久留米市三漕町 (作成主体:三漕町農業協同組合)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

三漕町は、米・麦・大豆の作付けが多くを占める土地利用型農業の盛んな地域であると同時に、タマネギ、いちご、レタスなどの栽培も盛んである。

主食用米の国内需要が減少している状況を踏まえ、高収益作物や大豆の面積拡大を図るとともに、麦の高品質化・生産性向上を図る必要がある。

近年、西日本地区の麦類の豊作、コロナ禍におけるマーケットの縮小に伴い、特に大粒大麦について実需者が過剰在庫を抱えており、福岡県全体においても令和3年産より大麦から小麦へ麦種転換が行われている。

しかしながら、県北JAを中心に小麦品種「チクゴイズミ」への品種転換が増加して「チクゴイズミ」も供給過剰となっており、小麦実需者からは「シロガネコムギ」への品種転換を強く要望されている。

このため三漕町では、実需者の要請に沿って従来の主力品種「チクゴイズミ」から「シロガネコムギ」を導入、品種転換することにより、麦の安定供給と生産力強化を図り、農家所得の向上を推進する。

大豆については、適地での作付を前提に、実需者の評価が高く収量の高い品種の導入や土壌改良資材の投入による地力向上、団地化の推進によって収量の安定・向上を図りながら、営農組織等の担い手による効率的な生産を推進する。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

三瀨町では、麦について、裸麦・大麦・小麦の作付があるが、農作業の分散を目的に農業者が作付けしているため、団地化が進んでいないのが現状である。また、近年の麦の豊作により実需者からは需要のある品種への転換が求められている。

団地化推進による作業効率向上と、需要に応じた品種への誘導を行うことで、麦の生産力の強化と農業者の生産意欲向上を図る必要がある。

大豆については、主に九州の豆腐・豆乳企業に向けて販売されているが、近年、気象条件の影響による単収低下により需要に応じた安定生産ができず、実需者からは安定した数量・価格での供給が求められている。

(2) 生産における現状と課題

麦について、生産者の高齢化や後継者不足が進み、麦類を作付けする生産者が少なくなっている。一方、1経営体当たりの麦作付け面積が増加傾向にあり、一部では降雨等の影響で適期作業ができずに単収低下を引き起こす状況にあることから、高性能作業機械の導入や部分浅耕播種技術の導入のほか、団地化を推進することで作業効率を向上させることが必要。

大豆については、近年の長梅雨や集中豪雨等の災害で、播種や中間管理作業を適期に出来ず単収が低下し、生産者の大豆に対する生産意欲は下がっている。また、難防除雑草(アサガオ・ホオズキ)の駆除が困難なほ場が散見され、大豆の作付け面積は減少傾向にある。このため、早期播種が可能な品種の導入、降雨後や乾燥条件でも発芽が安定する部分浅耕播種技術の普及を推進するほか、総合的雑草防除体系の実証・普及が必要。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
裸麦	イチバンボシ	79	107	107	344	420	388	272	449	415
	ダイシモチ	42	23	28	300	270	346	126	62	97
大麦	はるしずく	156	167	165	313	382	398	488	638	656
	くすもち二条	0	0	23	0	0	209	0	0	48
小麦	チクゴイズミ	421	392	384	357	422	379	1,503	1,656	1,456
	シロガネコムギ	14	16	12	293	363	192	41	58	23
作物計		712	705	719	341	406	375	2430	2863	2695

作物名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	237	239	215	150	99	129	355	237	277
作物計	237	239	215	150	99	129	355	237	277

- ※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
- ※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
- ※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
裸麦	イチバンボシ	4	5.1%	4	3.7%	4	3.7%	
	ダイシモチ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
大麦	はるしずく	4	2.6%	4	2.4%	4	2.4%	
	くすもち二条	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
小麦	チクゴイズミ	36	8.6%	36	9.2%	36	9.4%	
	シロガネコムギ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
作物計		44	6.2%	44	6.2%	44	6.1%	

作物名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	64	27.0%	64	26.8%	64	29.8%	
作物計	64	27.0%	64	26.8%	64	29.8%	

- ※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
- ※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。
- ※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

福岡県における団地基準(4ha以上の同一作物の作付け)で計算している

- ※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。
- ※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。